

儲かる農業を目指す【コメ食う人々の為の米作りのご提案！】

育苗期間のトラブルを回避する為には、塩水選の実施と

種子消毒、浸種、催芽を徹底させ発芽揃いを完璧にしましょう。

※昨年、バカ苗の発生した方は、特に塩水選と種子消毒を徹底しましょう！

☆種粒の浸種第一日目の水温が…

【最初に浸ける温度がポイント】

- × 冷水(5°C~10°C)の場合⇒その後、水温を12.5°C以上に上げても発芽率は低下する。
 ○ ぬるま湯(17.5°C)の場合⇒その後、低水温(10°C以下)になっても発芽率の低下は少ない。

⇒塩水選・種子消毒・浸種の水温、17.5°C 2日目からは10°C

～塩水選から催芽まで～

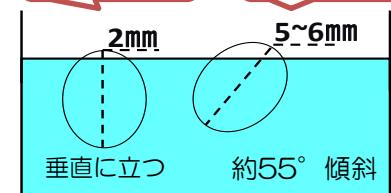


◇昨年の天候により本年度の種もみの品質が心配されます。塩水選で選別の徹底を行いましょう！

☆液肥の比重は、比重計または生卵で確認しましょう。

区分	比重	水100ℓ当たりの硫安の量	水100ℓ当たりの食塩の量
うるち	1.13	25kg	19kg
もち	1.08	14kg	11kg

もち (比重1.08)
うるち (比重1.13)



塩水の濃度と生卵の状態



- ☆よく水洗い、水切りをしましょう。
☆粒の袋詰めは、10kg用網袋に6~7分目(約20a分)としましょう。



◇近年は、特別栽培米の作付けが増え、温湯消毒や微生物殺菌剤等による種子消毒も有効とされている。

I:一般栽培による種子消毒

種粒量	水量	スルタック乳剤(1000倍)	ヨネポン乳剤(100倍)	浸漬時間
50kg	100ℓ	100cc	1ℓ	24時間
100kg	200ℓ	200cc	2ℓ	24時間

II:特栽米で農薬削減対策の予防対策

①微生物殺菌剤 (催芽器使用⇒催芽時、催芽器未使用⇒浸漬時)

種粒量	水量	タブロック(200倍)	浸漬時間
50kg	100ℓ	500g	24時間
100kg	200ℓ	1000g	24時間



☆浴比は…

種粒:水 = 1(kg) : 3.5(ℓ) ⇒種粒が水面でないように！！

「種粒」全体が均一に24%の水分(浸漬前の種粒水分は約13%)

にならないと発芽不揃い等育苗障害が発生しやすい！⇒健苗育成の失敗に繋がる！

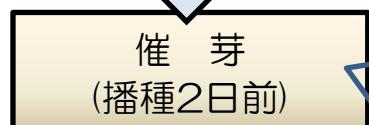
☆水温と浸種日数(標準)

積算温度	水温10°C	水温15°C
発芽しやすい品種(早生、もち) 100°C	10日	7日
発芽しにくい品種(コシヒカリ) 120°C	12日	8日

注1.水温が10°C以下にならないように！⇒7°C以下では、長時間浸漬しても吸水効果があがりません。

注2.必ず清水を用い、前半4日間は水を取り替えず、その後2~3回更新しましょう。

注3.水更新の際も、“育苗サム”1,000倍液を使用しましょう。



☆適温と日数は、28°Cで2日間を目安に！

→催芽・出芽時の高温は、細菌性病害の発病を助長するので、30°C以上にしない

☆80%以上がハト胸程度になるように催芽。

注.袋づめで催芽する場合は…

⇒特に外側と内側の差のないように袋に余裕をもたせましょう。

⇒時々、種粒の上下を入れ替えましょう。

タップリの水につける



↑正しいハト胸期